

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 13 年 2 月 調査結果 —

(平成 13 年 3 月 2 日)

○調査期間：平成 13 年 2 月 19 日～23 日

○調査対象：全国の 394 商工会議所が 2657 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 392 製造業 644 卸売業 244
小売業 762 サービス業 615

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (DI 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ DI 値について

DI 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 03-3283-7844 / 7836

E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【平成13年2月調査結果のポイント】

業況D1のマイナス幅5ヵ月連続拡大。特に製造業の業況悪化が顕著

- 2月の景況をみると、全産業合計の業況D1（前年同月比ベース、以下同じ）は、製造業、卸売業および小売業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲43.3）よりマイナス幅が2.5ポイント拡大して▲45.8となった。特に、製造業で7.0ポイントのマイナス幅拡大が目立った。昨年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は概ね横ばい傾向で推移したが、10月以降5ヵ月連続してマイナス幅が拡大した。中小企業の景況には、低迷感がさらに強まっており、地域経済や足元の景況感は引き続き厳しい状況にある。

建設業では、前々月の大幅な業況悪化の反動から、業況D1のマイナス幅は前月に続いて若干縮小しているものの、引き続き「公共工事の発注率が低下。公共、民間工事とも低価格競争が激しく、採算度外視の状況」（一般工事）、「手形取引に対するリスクも増大している」（一般工事）、「一時好調であったマンション需要も売れ行きに減速感が強まってきた」（土木工事）など、厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。製造業では、特に、これまで比較的好調であった一般機械、電気機械等で厳しさが増しており、「受注は確保できているものの単価的には厳しく、受注増が利益増に結びつかない」（一般産業用機械）、「受注の先細り傾向」（金属加工機械）、「厳しい状況が続く、下請け企業ほどしわ寄せが大きい」（鉄素形材）、「見通しが不透明。単価引き下げもあり、今後の動向に不安感も出てきている」（電子部品）などの声が多く寄せられている。卸売業では、「依然として消費が伸びない」（機械器具）、「消費の低迷および寒さのため、春物衣料の仕入れが小口で全体的な売上に結びつかない」（衣服・日用品）、「海外生産国の生産が増加。特に、中国製品の輸入が増加している」（繊維品）、「取引先の倒産が増加している」（総合卸）など、引き続き厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。小売業では、「若者向けの車、軽自動車を中心に好調を持続」（自動車）、「冬型の天候が続く、冬物商品が順調に動いている」（百貨店）との声がある一方で、「厳冬により春物衣料が売れない」（商店街）、「豪雪で客数減少」（商店街）、「大型店の影響がかなり出てきている」（商店街）、「衣料品中心に買い控え傾向が根強い」（百貨店）、「地域経済の動向が悪い」（百貨店）などの厳しい声も多く寄せられている。サービス業では、「会合、結婚式、会議の利用が減少しており、厳しい経営環境にある」（旅館）、「全国チェーンの低料金の店がオープンし、危機感が強まっている」（理容）、「雪の影響で客数減少。また、野菜が値上がりした」（一般飲食店）、「客数の伸び悩みに加え、客単価も安い」（食堂・レストラン）、「ソフト開発の受注が低調」（ソフトウェア）、「同業者間での競争の激化と荷主からの運賃値下げ要請も依然として強い」（運輸サービス）といった声がある一方で、「季節のふぐ料理の注文が多く売上増。仕入れ単価も下落し、先行きに期待」（一般飲食店）、「緩やかながら顧客が戻ってきた」（美容）、「キャンペーン効果により、客の入りは好調」（旅館）といった指摘も寄せられている。

売上面では、全業種で前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、全業種合計の売上D1はマイナス幅が4.3ポイント拡大して▲42.3となった。採算面でも、全業種で前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、全業種合計の採算D1はマイナス幅が3.2ポイント拡大して▲43.1となった。

- 向こう3ヵ月（3月～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D1（今月比ベース）が▲38.0と、昨年同時期の先行き見通し（▲28.7）に比べて非常に厳しい見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、個人消費の動向、公共工事の新規発注動向についての関心が高い。

【業況についての判断】

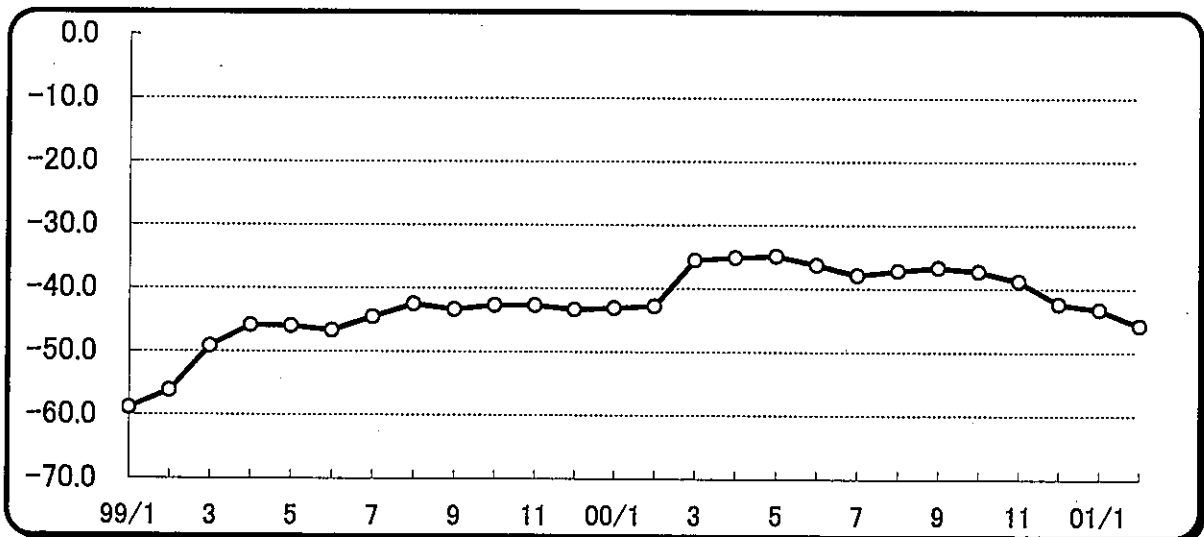
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、製造業、卸売業および小売業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲43.3）よりマイナス幅が2.5ポイント拡大して▲45.8となった。特に、製造業で7.0ポイントのマイナス幅拡大が目立った。昨年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は概ね横ばい傾向で推移したが、10月以降5ヵ月連続してマイナス幅が拡大した。中小企業の景況には、低迷感がさらに強まっており、地域経済や足元の景況感は引き続き厳しい状況にある。
- 向こう3ヵ月（3月～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲38.0と、昨年同時期の先行き見通し（▲28.7）に比べて非常に厳しい見方となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	12年 9月	10月	11月	12月	13年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲36.7	▲37.3	▲38.8	▲42.4	▲43.3	▲45.8	▲38.0 (▲28.7)
建設	▲50.6	▲49.6	▲50.3	▲58.0	▲57.5	▲56.7	▲49.6 (▲40.1)
製造	▲26.5	▲20.4	▲23.9	▲28.3	▲31.0	▲38.0	▲37.6 (▲19.9)
卸売	▲34.2	▲41.5	▲47.2	▲44.9	▲45.6	▲48.8	▲39.5 (▲28.7)
小売	▲45.5	▲46.9	▲46.9	▲48.9	▲48.0	▲50.3	▲39.7 (▲33.6)
サービス	▲28.5	▲34.2	▲33.7	▲38.4	▲40.3	▲40.2	▲27.4 (▲24.9)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヵ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年2月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



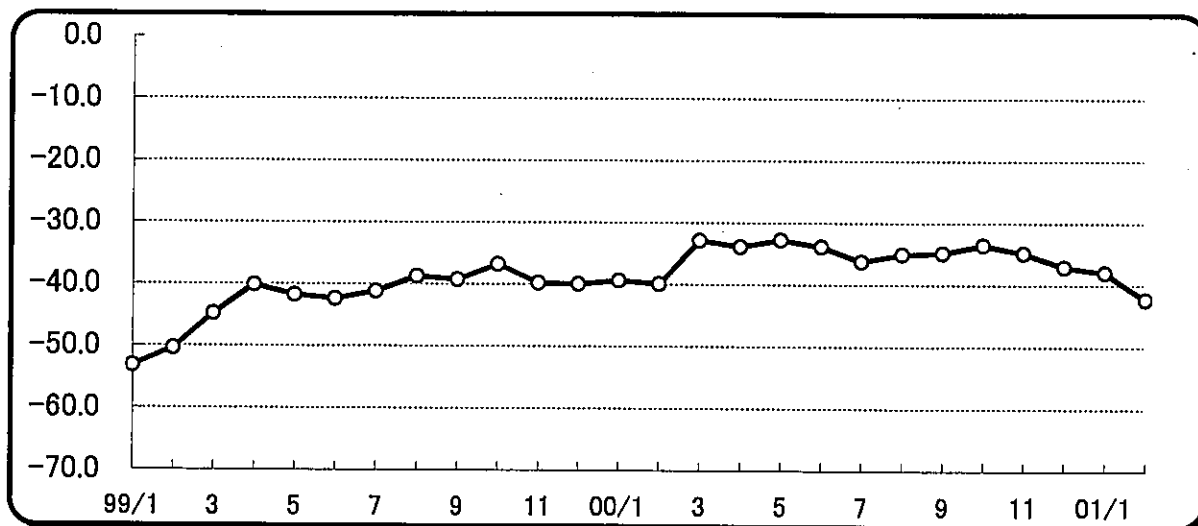
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、全業種で前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、全業種合計の売上D Iはマイナス幅が4.3ポイント拡大して▲42.3となった。
- 向こう3ヵ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が▲29.3と、昨年同時期の先行き見通し(▲23.3)に比べて厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	12年 9月	10月	11月	12月	1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲34.9	▲33.6	▲34.9	▲37.1	▲38.0	▲42.3	▲29.3 (▲23.3)
建設	▲48.2	▲44.2	▲48.5	▲50.2	▲47.6	▲52.5	▲44.3 (▲35.4)
製造	▲18.1	▲11.9	▲13.8	▲17.1	▲23.7	▲28.9	▲25.0 (▲13.3)
卸売	▲36.0	▲46.3	▲42.3	▲39.1	▲39.4	▲43.8	▲28.4 (▲24.4)
小売	▲47.1	▲43.9	▲46.6	▲49.6	▲45.9	▲51.0	▲32.1 (▲29.1)
サービス	▲28.5	▲32.4	▲31.2	▲33.9	▲36.6	▲38.7	▲20.3 (▲18.6)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



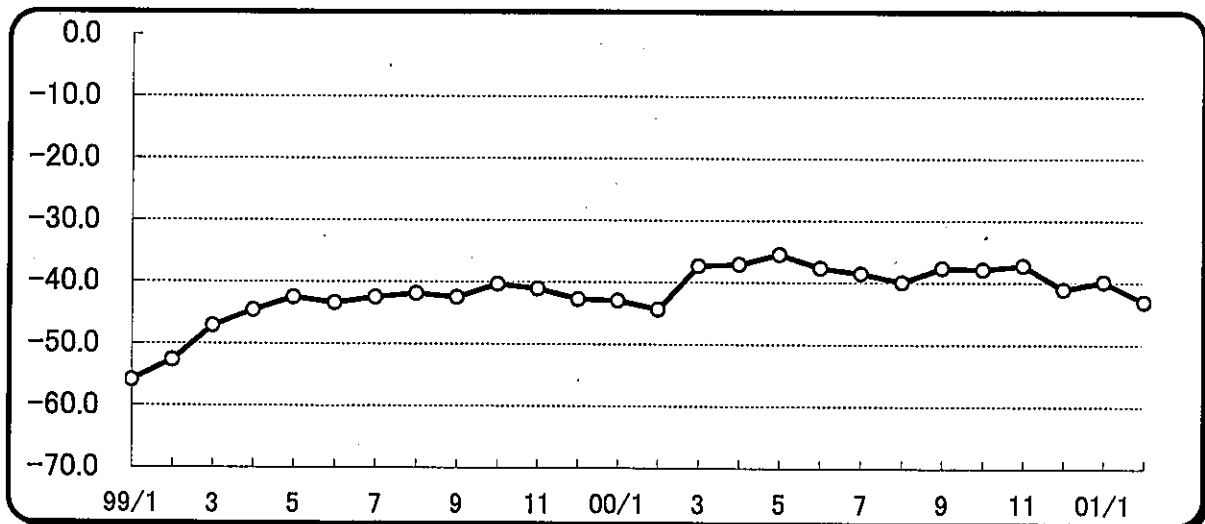
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、全業種で前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、全業種合計の採算DⅠはマイナス幅が3.2ポイント拡大して▲43.1となった。
- 向こう3ヵ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算DⅠ(今月比ベース)が▲31.5と、昨年同時期の先行き見通し(▲29.0)に比べてやや厳しい見方となっている。

採算DⅠ(前年同月比)の推移

	12年 9月	10月	11月	12月	13年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲37.7	▲37.9	▲37.3	▲41.1	▲39.9	▲43.1	▲31.5 (▲29.0)
建設	▲54.4	▲55.1	▲51.9	▲58.0	▲53.8	▲57.8	▲47.9 (▲41.2)
製造	▲28.0	▲26.3	▲26.7	▲30.1	▲33.6	▲38.8	▲31.1 (▲24.5)
卸売	▲43.8	▲45.7	▲38.0	▲41.0	▲36.3	▲38.9	▲28.4 (▲26.5)
小売	▲40.4	▲39.0	▲41.6	▲46.8	▲44.2	▲46.3	▲31.7 (▲32.1)
サービス	▲31.5	▲34.7	▲33.2	▲34.9	▲33.2	▲35.5	▲21.5 (▲22.8)

《採算DⅠ(全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

※平成12年7月期から調査実施

	12年 9月	10月	11月	12月	13年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	▲ 25.6	▲ 25.7	▲ 25.2	▲ 28.5	▲ 26.8	▲ 27.9	▲ 25.3
建設	▲ 37.0	▲ 32.4	▲ 32.1	▲ 38.3	▲ 34.7	▲ 34.4	▲ 36.2
製造	▲ 23.5	▲ 22.1	▲ 20.8	▲ 27.6	▲ 24.5	▲ 26.9	▲ 24.5
卸売	▲ 19.7	▲ 21.3	▲ 23.1	▲ 25.2	▲ 20.9	▲ 23.7	▲ 28.1
小売	▲ 25.2	▲ 26.1	▲ 27.4	▲ 28.9	▲ 28.5	▲ 28.8	▲ 23.7
サービス	▲ 22.8	▲ 26.6	▲ 23.5	▲ 23.1	▲ 24.3	▲ 24.7	▲ 19.1

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設業を除く全業種で悪化超感強まる。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	12年 9月	10月	11月	12月	13年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	▲ 0.3	0.4	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 2.1	▲ 1.7	▲ 2.6 (▲ 3.0)
建設	▲ 0.4	0.0	2.1	▲ 1.5	▲ 3.5	▲ 4.6	▲ 5.7 (▲ 0.4)
製造	▲ 6.6	▲ 3.6	▲ 6.0	▲ 4.9	▲ 5.6	▲ 4.4	▲ 5.1 (▲ 7.5)
卸売	9.3	12.8	4.3	7.1	6.3	1.2	2.5 (4.1)
小売	6.6	4.6	8.0	6.8	4.8	6.4	2.4 (▲ 0.6)
サービス	▲ 6.1	▲ 5.1	▲ 7.8	▲ 6.1	▲ 9.1	▲ 7.8	▲ 6.0 (▲ 5.6)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造業、小売業およびサービス業で下落超感強まる。

【先行き見通しD I】製造業および小売業で、昨年同時期に比べて下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	12年 9月	10月	11月	12月	13年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲ 8.6	▲ 9.1	▲ 9.5	▲ 11.0	▲ 10.6	▲ 11.1	▲ 12.5 (▲ 11.5)
建設	▲ 21.3	▲ 20.9	▲ 20.6	▲ 20.9	▲ 22.6	▲ 22.4	▲ 25.3 (▲ 22.0)
製造	▲ 6.6	▲ 9.1	▲ 10.4	▲ 13.0	▲ 10.0	▲ 11.2	▲ 16.8 (▲ 11.3)
卸売	▲ 10.6	▲ 11.6	▲ 9.2	▲ 10.9	▲ 15.0	▲ 19.1	▲ 15.9 (▲ 8.3)
小売	▲ 7.0	▲ 6.6	▲ 5.4	▲ 6.4	▲ 8.6	▲ 6.0	▲ 6.5 (▲ 10.4)
サービス	▲ 3.5	▲ 3.3	▲ 5.7	▲ 7.7	▲ 3.9	▲ 6.2	▲ 4.8 (▲ 7.3)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】製造業、卸売業およびサービス業で過剰超感強まる。

【先行き見通しD I】建設業、製造業および卸売業で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成13年2月の景気キーワード】

○ 採算悪化

建設業からは、「公共工事の発注率が低下。公共、民間工事とも低価格競争が激しく、採算度外視の状況」（恵庭・一般工事）、「仕事量が全体的に減少しているために、単価の低い注文でも、引き受けざるを得ない厳しい状況続く」（川崎・一般工事）、「リフォーム等の発注はあるものの、採算面では下降気味」（東京・建築工事）、「採算割れ状況が続いている」（樫原・一般工事）といった声が寄せられている。製造業からは、「受注単価の低下に歯止めがかからず、採算が悪化している」（札幌・印刷業）、「受注は確保できているものの単価的には厳しく、前年同様受注増が利益増に結びつかない」（焼津・一般産業用機械）、「コストダウンの要請がさらに強くなる傾向がある」（安城・自動車、附属品）、「販売価格の採算割れ」（大野・織物）、「仕事があっても、取引先の値引要求が強くなり採算割れになる」（赤穂・金属加工機械）、「単価の切り下げによる採算の悪化が長引きそう」（宮崎・建具）との声が寄せられている。さらに、卸売業・小売業・サービス業についても、「大型店等の進出による競争激化や客数減・客単価下落が小売業の収益をより圧迫している」（豊橋・商店街）、「流通コスト削減のため運賃料金の減額を要求され、苦戦を強いられている」（石岡・運輸サービス）など、採算の悪化を訴える声が多く寄せられている。

○ 先行き不透明感

「材料の値段が若干上がっているものの、売上高等は昨年よりも上向き、回復感がある。先行きも期待感が強い」（所沢・金属加工機械製造）、「緩やかながら顧客が戻ってきた」（守山・美容）、「若者向けの車、軽自動車を中心に好調を持続」（釧路・自動車小売）などの声がある一方で、先行きの発注等についての不透明感の指摘が多く寄せられている。建設業からは、「住宅着工件数は前年比89%、前々年比86%で、春以降も回復の兆しはない」（帯広・建築工事）、「手形取引に対するリスクも増大している」（塩尻・一般工事）、「一時好調であったマンション需要も売れ行きに減速感が強まってきた」（横須賀・土木工事）などの声が寄せられている。製造業からは、「見通しが不透明。単価引き下げもあり、今後の動向に不安感も出てきている」（塩尻・電子部品）、「厳しい状況が続く、下請け企業になればなるほどしわ寄せが大きい」（川崎・鉄素形材）、「受注の先細り傾向」（相模原・金属加工機械）などの声が寄せられている。また、卸売業・小売業からは、消費動向好転の兆しがないとの声が、またサービス業からは、旅館や飲食店において、団体客の予約が少ないなどの声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
12年12月	先行き不透明感	競争激化	豪雪・寒波の影響
13年 1月	先行き不透明感	競争激化	
13年 2月	採算悪化	先行き不透明感	

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況DⅠは、前々月の大幅なマイナス幅拡大の反動から2ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が縮小する一方、売上・採算DⅠはマイナス幅が拡大している。「公共工事の発注率が低下。公共、民間工事とも低価格競争が激しく、採算度外視の状況」(一般工事)、「手形取引に対するリスクも増大している」(一般工事)、「一時好調であったマンション需要も売れ行きに減速感が強まってきた」(土木工事)など、厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。
製 造	業況・売上・採算DⅠとも4ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。特に業況DⅠは、7ポイントの大幅拡大となっている。また、これまで比較的好調であった一般機械、電気機械等で厳しさが増しており、「受注は確保できているものの単価的には厳しく、受注増が利益増に結びつかない」(一般産業用機械)、「受注の先細り傾向」(金属加工機械)、「厳しい状況が続く、下請け企業ほどしわ寄せが大きい」(鉄素形材)、「見通しが不透明。単価引き下げもあり、今後の動向に不安感も出てきている」(電子部品)などの声が寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算DⅠとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「依然として消費が伸びない」(機械器具)、「消費の低迷および寒さのため、春物衣料の仕入れが小口で全体的な売上に結びつかない」(衣服・日用品)、「海外生産国の生産が増加。特に、中国製品の輸入が増加している」(繊維品)、「取引先の倒産が増加している」(総合卸)など、引き続き厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。
小 売	業況・売上・採算DⅠとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「若者向けの車、軽自動車を中心に好調を持続」(自動車)、「冬型の天候が続く、冬物商品が順調に動いている」(百貨店)との声がある一方で、「厳冬により春物衣料が売れない」(商店街)、「豪雪で客数減少」(商店街)、「大型店の影響がかなり出てきている」(商店街)、「衣料品中心に買い控え傾向が根強い」(百貨店)、「地域経済の動向が悪い」(百貨店)などの厳しい声も多く寄せられている。
サービス	業況DⅠは前月水準に比べてマイナス幅が縮小する一方、売上・採算DⅠはマイナス幅が拡大している。「会合、結婚式、会議室の用が減少しており、厳しい経営環境にある」(旅館)、「全国チェーンの低料金の店がオープンし、危機感が強まっている」(理容)、「雪の影響で客数減少。また、野菜が値上がりした」(一般飲食店)、「客数の伸び悩みに加え、客単価も少ない」(食堂・レストラン)、「ソフト開発の受注が低調」(ソフトウェア)、「同業者間での競争の激化と荷主からの運賃値下げ要請も依然として強い」(運輸サービス)といった声がある一方で、「季節のふぐ料理の注文が多く売上増。仕入れ単価も下落し、先行きに期待」(一般飲食店)、「緩やかながら顧客が戻ってきた」(美容)、「キャンペーン効果により、客の入りは好調」(旅館)といった指摘も寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

- ブロック別の業況D1（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。また、北海道、北陸信越、関東を除く各ブロックで、前月水準に比べてマイナス幅が拡大した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（3月～5月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、全ブロックで、昨年同時期の先行き見通しに比べて非常に厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況D1（前年同月比）の推移

	12年 9月	10月	11月	12月	13年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全 国	▲ 36.7	▲ 37.3	▲ 38.8	▲ 42.4	▲ 43.3	▲ 45.8	▲ 38.0 (▲ 28.7)
北 海 道	▲ 29.1	▲ 33.1	▲ 35.3	▲ 43.4	▲ 43.1	▲ 40.7	▲ 38.1 (▲ 17.7)
東 北	▲ 32.3	▲ 35.8	▲ 35.0	▲ 39.3	▲ 45.3	▲ 54.8	▲ 46.4 (▲ 32.7)
北陸信越	▲ 38.9	▲ 34.8	▲ 39.7	▲ 42.4	▲ 47.9	▲ 36.4	▲ 24.1 (▲ 19.5)
関 東	▲ 33.5	▲ 35.4	▲ 34.0	▲ 37.8	▲ 41.8	▲ 41.6	▲ 30.9 (▲ 27.3)
東 海	▲ 33.1	▲ 35.3	▲ 40.6	▲ 40.9	▲ 37.0	▲ 45.4	▲ 44.4 (▲ 33.7)
近 畿	▲ 46.0	▲ 41.5	▲ 45.9	▲ 47.3	▲ 43.0	▲ 53.2	▲ 40.2 (▲ 39.1)
中 国	▲ 37.3	▲ 37.4	▲ 39.0	▲ 44.5	▲ 42.8	▲ 45.3	▲ 41.0 (▲ 29.0)
四 国	▲ 46.2	▲ 49.1	▲ 45.7	▲ 48.6	▲ 57.8	▲ 58.6	▲ 40.5 (▲ 22.7)
九 州	▲ 35.3	▲ 37.5	▲ 38.4	▲ 43.7	▲ 39.5	▲ 41.2	▲ 45.2 (▲ 29.3)

